育教の児幼

月十年二十和昭

現下の時局と幼児保育

倉橋三恵

現下の時局は幼児保育はそれだけの緊張を止まずいない。国の非時平は国の将令に對して遠慮させることでもある。現下素より一心不乱であるが、国は長い。恐らく非常性も亦長いであろう。幼児保育の必要がその将来の厳肅性に於て厳肅にあらずを得ないのは、苟も思慮をもって何人於ても同一でなければならぬ。あの、勇壮無比に戦うる勇士を想ふついても、その後を嗣ぐものこそして、強い日本
人の心身の健全な発達と故に同胞が引受けるかも知れぬ。強い日本人の名なと態の発展を誰れかが受け持つ。今こそ幼児教育者のか、

その詰めを任務を負に日本に結びつけて自覚する時である。

勇士は国のために神達にほほ。その後をしつかりと守って、あの勇ましさき父達兄達に後顧の憂の支ししては、観

後のつめの第一である。そのために、両方の問題が大切である。幼稚園、保育所、それに、愛を愛するのとは、医

このも、緊急のここである。否、それこそ最も緊急事である。幼稚園、保育所は、その意味で特別の貴重な自覚する

おこじんのここは引受けてる。安心して国をためつて下さ。それは、非常時幼児保育の高唱の声である。

男子が街に出て戦う時、内に婦人の役務が増加するのは當然である。平生の婦人活動の分まで働くかね

ればならなくなる。それは非常時婦人の義務である。たとえ、その婦人が母である場合。その非常時活動の忙しさは、お

つから、その愛の愛育の暇をせざることをせわないことしない。それでも構ってらわれない。忙しさが已むを得ないだけに

愛児の方に如何に気のひかれるここかをせずにみられねし。察する察しないでいか。事欠くところは何らか補

さねばならない。平生でも家庭教育を補ふここを任して居る幼稚園、保育所の任務は、ここに非常時緊急性を加へら

者の高唱の声である。いつも男がする仕事引受けて二本のたすきをかけめる非常時母性のために、非常時保育も二本三

本のたすきをかけずにみられないのである。
時局の緊張は国士の上に流れ、国を左右する。国を守るため、勿論平時は亦一刻も忘れない国である。しかも、特に国民が集う全体の全體の時間に国の意義が強められても、今日は、それが幼児達にも素直に反映されなければならぬ。幼児保育は国家意識に指導し、強化してゆくのは、今日の幼稚園、保育所の力である。幼児達に、保育の方法論を通して、必ずしも一近かつ非直の方法でなければならない。幼児保育を実施するためには、その幼児達にその必要を感じさせ、そのために幼児に、保育者の心を、反映してゆく必要がある。